

令和元年度 第2回阪南市市民協働推進委員会 会議録（概要）

名称	令和元年度 第2回阪南市市民協働推進委員会
開催日時	令和2年1月24日（金） 午後6時00分～
開催場所	阪南市役所 別棟1階 第2会議室
出席者	【推進委員】吉田委員長、有田副委員長、西浦委員、小坂委員、井澤委員、坂上委員、小菅委員、田邊委員、横田委員、吉永委員 10人出席 【事務局】地域まちづくり支援課 戸崎課長、藤井総括主査、岩下総括主事、枇榔主事
傍聴人数	0人
議題	令和元年度 市民協働事業提案制度 成案化した事業について 市民協働事業提案制度の見直しについて
資料	資料1 令和元年度 市民協働事業提案制度 成案化した事業について 資料2 市民協働事業提案制度の見直しについて 参考資料1 市民協働庁内推進職員研修について 参考資料2 やぐらパレードバリアフリーマップ（平成30年度提案制度）
会議	<p>【令和元年度 市民協働事業提案制度 成案化した事業について】</p> <p>事務局 令和元年度 市民協働事業提案制度 成案化した事業について、資料1に基づき、プレゼンテーションを経て成案化した事業について事務局より説明。</p> <p>（推進委員からの意見、質疑・応答）</p> <p>委員長 市の予算を伴わないという事で、本来であれば予算化し翌年度4月からの事業開始となると思いますが、そのような制限が無いため、本年度から進められる部分はどんどん進めていただくことができるという事で、既に動きが始まっているという説明でした。 何か、ご意見やご質問はありますか。</p> <p>委員 コットンワークスですが、阪南市社会福祉協議会も月例会に参加しており、今ふるさと納税の返礼品に出されていたり、市外の企業が団体を訪れコットンの木を購入して帰られたりしている。 この事業は出口づくりではないかと感じている。入り口として、コットンの栽培を行ったがそれをどのように発展させるかなど、円卓会議で出口を見つけていく感じになるのではと 思っている。</p> <p>委員長 そのほか、ご質問などありませんか。 副委員長どうですか。事業やスキームについて何かありますか。</p> <p>副委員長 舞校区避難所運営マニュアルについては、今まさに災害が多く起こっている中で、有事に備え準備をするというのは、顔の見えるコミュニティ作りにつながっていくと思う。また、孤立化や高齢化のような様々な問題の解決につながっていけばいいと思っている。 コットンワークス円卓会議については、阪南市の地域文化や地場産業の活性化という部分で、多様な人が集まるという場を作られるというのは大変いい取り組みだと思う。 市民提案からいろいろなものが生まれてくるのは、いい傾向だと思う。</p> <p>【市民協働事業提案制度の見直しについて】</p> <p>委員長 市民協働事業提案制度は、市民と行政と一緒に新しいことを行うという制度。これに対し、はなていアクションは、市が既の実施している事業を行政が継続して行うのが良いのか、民間から新しいやり方の提案を頂き、民間に任せるという制度。 制度は違うのだが、市民からすれば分かりにくいという事で、入り口を1つにして、提案の内容を見てから振り分けていく流れにして、できればこの2つの制度の募集時期や受け入れ窓口を統一していきたいという説明でした。 何か、ご意見やご質問などはありますか。</p> <p>委員 はなていアクションと提案制度はそもそも趣旨が違うもの。ただ募集期間を一緒にするのはいいことだと思う。内容によって振り分けをするのであれば、同じタイミングで良いと思う。 市の予算が必要かどうかという部分ですが、はなていアクションは元々予算という財源の中で事業を進めていこうというもので、提案制度は市民の困りごとやニーズがある中で、それを市の予算の中で実施していくものなのか、それとも市民活動センターと相談しながら助成金を活用して実施していく方法もあるかもしれない。 このように考えると、市の予算が必要かどうかという文言を要領等に入れてしまうと、提案を出す意欲が減る気がするため、もっと市の予算の中で実施するというよりも、市民ニーズがある中で実施できる方法を考えるという幅を持った記載の方が良いと思う。</p> <p>委員 市民活動センターを担当しているが、まさにその通りだと思う。市の予算が無いという事が前提となると話が進まないという事もある。予算が無いからという事ではなく、市民ニーズからどのように事業を作っていくかなど、市や市民活動センターと連携相談して進めていくことが良いと思う。 予算が無いという部分に関しては、市が他所から助成金を獲得するという方法もある。現状が厳しいということはよくわかるが、さまざまな方法もあるという事。</p>

副委員長 事務局説明の中で、市民協働事業提案制度とはなていアクション、もう一つはなんなん共創事業プランコンペの話があったが、プランコンペにはどのような事業の応募があったのか、教えてもらいたい。

委員 はなんなん共創事業プランコンペは市民活動センターの事業となっている。応募状況としては、4団体あり1つ目が本をテーマにしたブックカフェ事業、2つ目が結婚等により離職した女性の就労支援事業、3つ目が学校毎やPTAの役員交代等による情報連携不足を補うためのPTA情報集約事業、4つ目が終活を目的としたフリーマーケット事業。

副委員長 なぜ伺ったのかというと、今の市民協働事業提案制度は新しい事業を生み出すことと、課題解決という側面がある。はなていアクションは行政事務事業の協働化なので、新しい事業を創造するクリエイティブな要素は難しいと思う。その部分まで幅を持たせるはなていアクションであれば言うことはないが。市民協働事業提案制度とはなていアクションとはなんなん共創事業プランコンペ、この3つの制度を2つに整理するチャンスではないかと思う。プランコンペはどちらかというと、行政と協働をするより、市民団体がネットワーク化したり、多様なところと連携しながら実施していくもの。創造的な事業を生み出す要素の制度は必要であると思う、すべてをはなていアクションとして集約することは難しい。ただ、市民協働事業提案制度とはなていアクションはもう少し整理しなければならないと思う。

委員 資料2に改善案とあるが、要綱や要領との関係はどのようになるのか。

事務局 改善案に沿うように、要綱等を改正し募集を開始していく。

委員 時期を揃えていくに併せて、概要だけでもいいのでチラシの作成もあってもいいのではと思う。

【その他】

事務局 市民協働庁内推進職員研修について、参考資料1に基づき説明。
平成30年度成案化事業の成果物について、参考資料2に基づき説明。

委員長 その他について、何かご意見やご質問はありますか。

委員 市民協働の推進ということだが、資料等を拝見するにソフト事業が多いように思う。また併せて福祉関係が多い。これは時代的なものかもしれないが。私個人で思うに、視察もそうだが商工業も取り入れてもいいのではと思う、阪南市には農業や漁業関係もある。農業も衰退しているとはいうものの、何か協働で行い構造改革的なものを取り入れ、産業育成につながることも行っていってもらえればと思う。

委員 漠然とした感じだが、市の職員はあまり地域のことを知らないのではないかと思う。阪南市にも人材は多くいると思うが、そのような情報も知らないのではないか。人を集めて行うばかりが研修ではなく、地域に出向き自らもっと阪南市の事を知る機会が必要ではないかと思う。

委員 市のお金が無いという事を、全面的に押し出してくると、市の持っているインフラやノウハウを利用すること以外の提案はしにくくなり、提案の幅が狭く提案数も減少してくると思う。そのあたりの表現の仕方や見せ方を考えて募集等を行っていく必要がある。

委員 私は、山中溪から来ているが、土日のわんぱく王国では、親子連れで賑わったりしており、ここ10年でまちづくりはかなり進んだと思う。しかし、住んでいる者としては、もっと市民全体で取り組めたらとも思う。イベント的なものは最近知られてきているため、イベントばかりではなくもっと身近なところからの取り組みも必要ではないかと思っている。

委員長 そのほか特に無いようでしたら、これにて本日の推進委員会は終了します。